



2010年9月期 第2四半期決算説明資料

2010. 5.17(東京) 2010. 5.18(大阪)



Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

決算概要と主要アクション



決算概要

- **売上高・受注高:**
受託試験の増加や振動シミュレーションシステムにおいて韓国向けの輸出が伸びたこと等により、受注高は前年同期を上回りましたが、期首受注残高が低水準であったこともあり、売上高は前年同期比29.8%減の1,934百万円となりました。
- **当期純利益:**
固定費削減が当初の想定を上回ったことや限界利益率の改善もあり、四半期純利益は101百万円となり、前年同期と比べ75百万円の増益(対前年同期比287.5%増)となりました。

主要アクション

- **新製品の開発:**
需要が高まっているリチウムイオン電池向けの検査装置をリリースしました。
前期に発売した省エネ振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」シリーズにおいて、当初未対応であった水冷型の大型システムを開発し、納品いたしました。
- **他社との協業を推進:**
GEエナジー・ジャパン株式会社やデンマークのブリュエル・ケアー社と業務提携契約を締結し、品揃えや販売チャネルを強化しました。国内では開発力の強化を目的に、電子機器の開発受託を行う株式会社データ・テクノを連結子会社化しました。

今後の展開

- 風力・太陽光発電やリチウムイオン電池関連の新製品開発を継続するとともに、海外への販売強化を目指して協業を更に進めてまいります。

決算概要(連結)



(単位:百万円)

	10/9中間期 実績	09/9中間期 実績	増減額	増減率	10/9中間期 予想	増減率
売上高	1,934	2,755	△821	△29.8%	1,880	+2.9%
営業利益 (営業利益率)	148 (7.7%)	113 (4.1%)	+35	+31.1%	25	+485.4%
経常利益 (経常利益率)	146 (7.6%)	111 (4.1%)	+34	+30.8%	5	—
四半期純利益 (四半期純利益率)	101 (5.3%)	26 (1.0%)	+75	+287.5%	3	—
	10/9中間期 実績	09/9中間期 実績	増減額	増減率	概要	
設備投資額	17	252	△234	△93.0%	設備投資予算凍結によるものです。	
減価償却費	124	121	+2	+2.3%	主に鉄道車両機器向けテストラボへの投資に伴う増加です。	
研究開発費	69	117	△48	△40.8%	研究開発費で予定していた案件を受注工事として原価計上した影響です。	
従業員数(人)※	200	222	△22	△9.9%	早期希望退職の募集と非正規従業員の雇用調整の影響です。	

※△は損失を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前年同期比821百万円減収の1,934百万円となりました。固定費の削減及び利益率の高い製品の構成比率が高まったことにより、営業利益は前年同期比31.1%増益の148百万円、経常利益は前年同期比30.8%増益の146百万円となりました。四半期純利益は前年同期比287.5%増益の101百万円になりました。

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

2010年9月期 中間期の対前年同期比



売上減少

- ◆ 前期末の受注残高が最低水準であった。

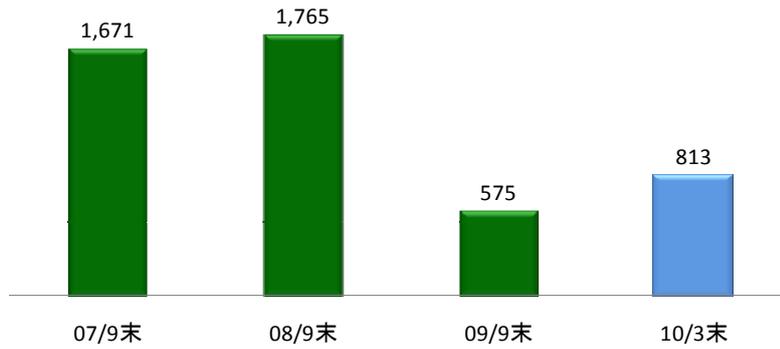
利益増加

- ◆ 高利益率品目の売上構成比率が高まった。
- ◆ 固定費・経費の削減効果。

受注残比較



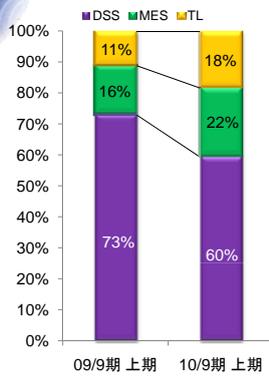
単位: 百万円



高利益品目の売上げ

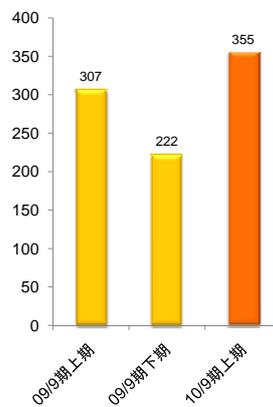


製品群別売上構成比



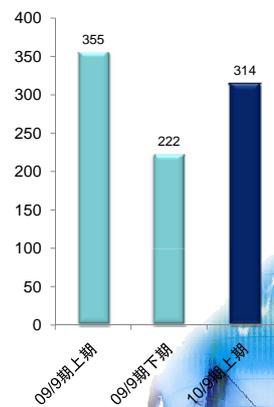
テストラボ

単位: 百万円

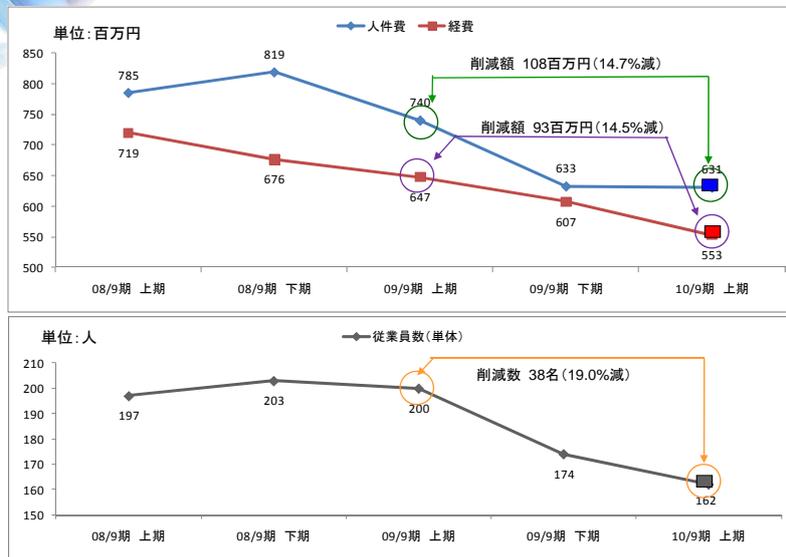


エンジニアリングサービス(修理点検)

単位: 百万円



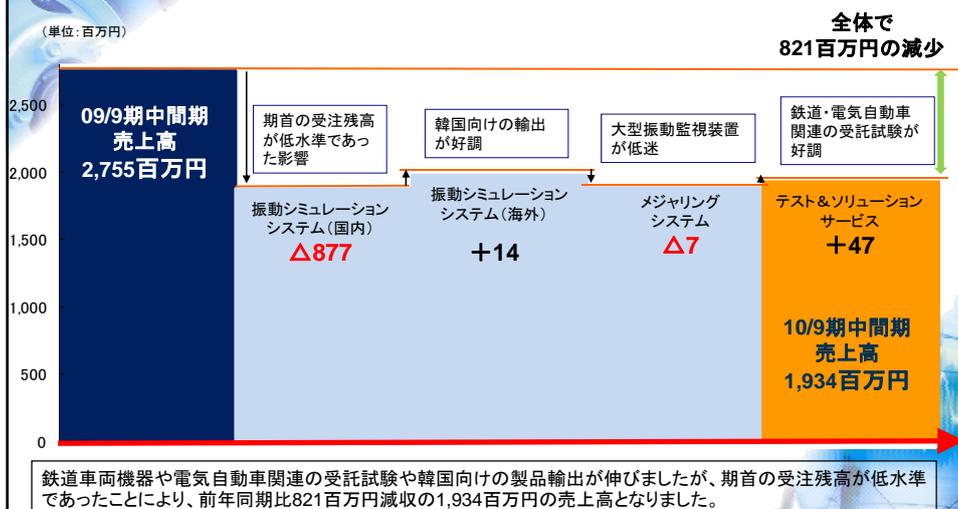
固定費・経費の削減



7

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

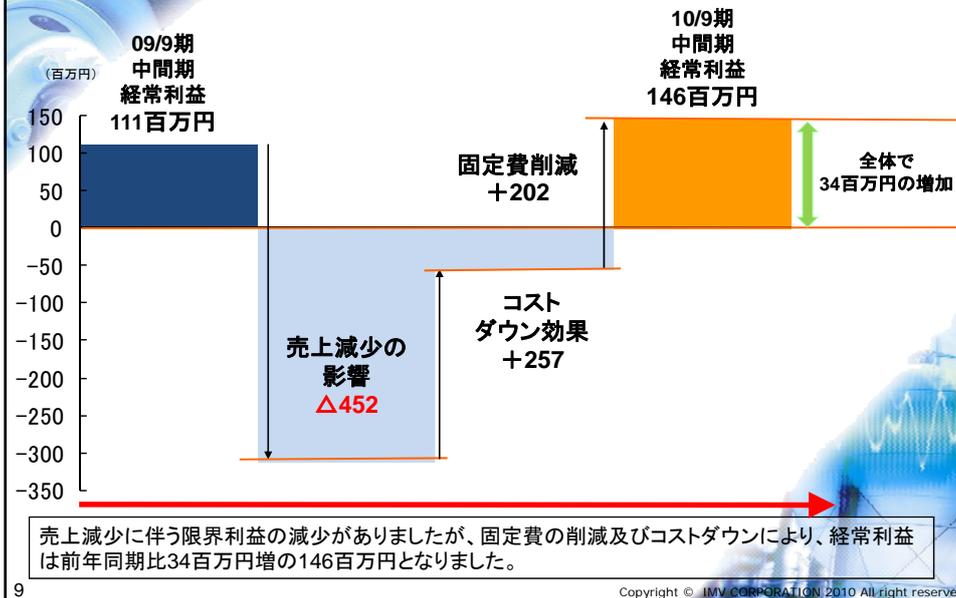
売上高減少の内訳(連結)



8

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

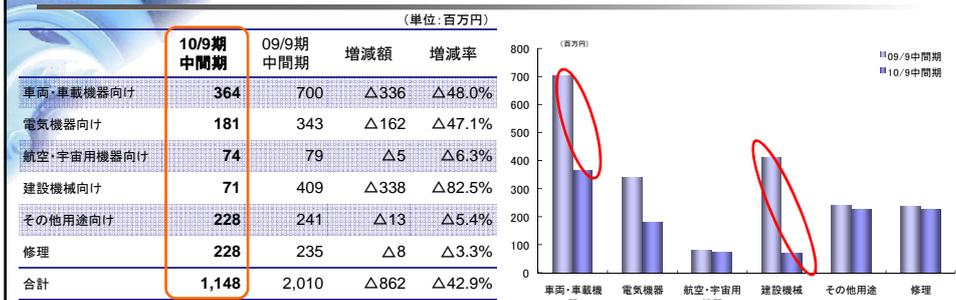
経常利益増加の内容(連結)



9

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

振動シミュレーションシステム ～概況～



- 期首の受注残高が低水準であったことにより、前年同期比862百万円減収の1,148百万円となりました。
- 欧州最大の振動シミュレーションシステムメーカーLDS社の親会社であるブリュエル・ケアー社と業務提携を締結しました。これにより、当社の多軸製品をLDS社の販売チャネルでグローバルに拡販をするとともに、LDS社が得意とする大型振動シミュレーションシステムを当社が日本国内で販売することが可能となり、市場の拡大と製品ラインナップの強化を図ることができました。

10

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

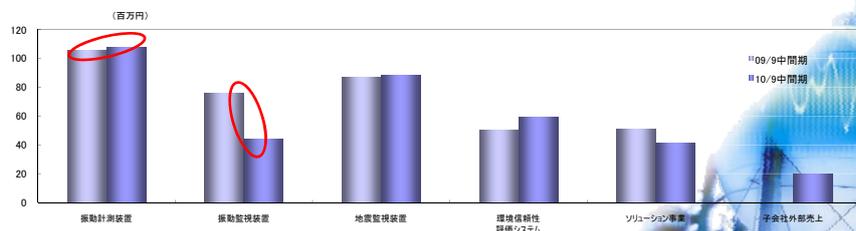
メジャリングシステム ～概況～



(単位: 百万円)

	10/9期 中間期	09/9期 中間期	増減額	増減率
振動計測装置	108	106	+2	+2.2%
振動監視装置	44	76	△32	△42.1%
地震監視装置	88	87	+0	+0.0%
環境信頼性評価システム	59	50	+8	+17.2%
ソリューション事業	41	51	△10	△20.9%
その他・修理	67	64	+3	+5.4%
子会社外部売上	20	-	+20	-
合計	430	438	△7	△1.8%

- 海外を中心に携帯型振動計の需要が戻りつつありますが、大型振動監視装置の回復には時間を要しており、売上高は前年同期比7百万円減収の430百万円となりました。
- 設備状態監視システム分野においてGEエナジー・ジャパン株式会社と業務提携を締結しました。
- 需要が高まるリチウムイオン電池向けの検査装置をリリースしました。
- 開発力の強化を目的に、電子機器の開発受託を行う株式会社データ・テクノを連結子会社化しました。



11

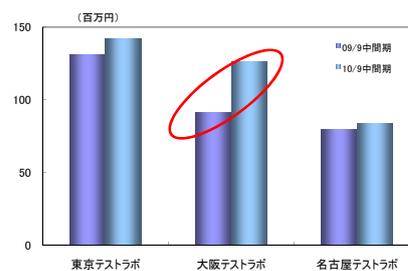
Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

テスト&ソリューションサービス ～概況～



(単位: 百万円)

	10/9期 中間期	09/9期 中間期	増減額	増減率
東京テストラボ	142	124	+18	+14.8%
大阪テストラボ	126	98	+27	+27.9%
名古屋テストラボ	84	80	+4	+6.2%
子会社外部売上	1	4	△3	△73.1%
合計	355	307	+47	+15.6%



- 鉄道車両機器や電気自動車関連の受託試験が好調であり、売上高は前年同期比47百万円増収の355百万円となりました。
- 鉄道関連が寄与した大阪テストラボに留まらず、名古屋・東京でも電気自動車関連の試験が増加したこと等により、テストラボ全体で四半期としては過去最高の受注・売上高となりました。

12

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved



今後の取り組み



Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

業績見通し(連結概要)



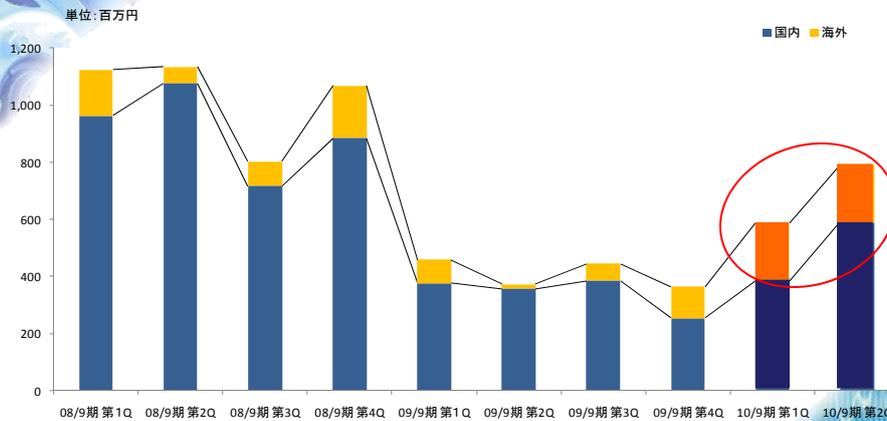
既発表の業績予想を据置き

(単位:百万円)	10/9期 予想	10/9期 中間期実績	達成率	(参考) 09/9期実績
売上高	4,175	1,934	46.3%	4,158
営業利益 (営業利益率)	170 (4.1%)	148 (7.7%)	87.1%	△173 (△4.2%)
経常利益 (経常利益率)	130 (3.1%)	146 (7.6%)	112.3%	△178 (△4.3%)
当期純利益 (当期利益率)	130 (3.1%)	101 (5.3%)	77.6%	△324 (△7.8%)
設備投資	134	17	12.6%	313
減価償却費	264	124	46.9%	279
研究開発費	262	69	25.9%	196
従業員数(人)※	212	200	—	213
1株当たり当期純利益	7.95円	6.24円	—	△19.86
1株当たり配当金※	2.0円	—	—	1.0

※ △は損失を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※10/9期の配当金につきましては、2010年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

振動シミュレーションシステムの受注回復の兆し



金融危機以降、自動車業界を中心に設備投資には慎重な姿勢を示していましたが、前期末で底打ちし、順調に回復しております。特に海外では韓国向けが好調であり、ロシアや中国をはじめとした他の新興国でも回復の兆しが出ております。危機以前の水準に戻るにはもう少し時間が必要と思われませんが、この回復傾向は継続するものと考えております。

今後の事業展開ポイント



<新規事業強化>

- 1) リチウムイオン電池分野への新製品投入と販売強化
- 2) 風力発電分野への設備診断装置の開発と販売強化



リチウムイオン電池用高耐電圧テスター (WV-2000L VADER)

<海外販売力の強化>

販売拠点作り

<協業の推進>

GEエナジー・ジャパン株式会社(設備診断)

ブリュエル・ケアー社/LDS社(製品相互供給)

蘇州蘇試試験儀器有限公司<STI>(製品相互供給)



新規事業への取り組み強化

執行役員 経営企画部長兼新規事業部長 桂井徹



Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

新規事業戦略概要



事業領域の変化への対応を加速

・多くの進展があり、方向性がより強固に定まってきた

①次世代クリーンエネルギー分野への対応強化

- ・風力発電
- ・リチウムイオン電池/太陽光パネル、等

②グローバルな協業による、事業範囲の拡大

③海外高速鉄道計画等に伴う、鉄道車両用試験機
ビジネス拡大の準備

①次世代クリーンエネルギー分野



1. 風力発電市場

振動計測・ソリューション技術をベースにした
設備診断装置(プロトタイプ機)が完成



今後はデータ採取しながら装置の評価・検証を進める

風車診断/監視ビジネスへの展開を目指す

更に進化させた新計測技術開発に関しても展開中

大学の研究機関との共同開発を進めている

①次世代クリーンエネルギー分野



2. リチウムイオン電池市場(1)

大容量リチウムイオン電池用高耐電圧テスターを販売開始
(新規リリース第一弾)



● WV-2000L(VADER)

①次世代クリーンエネルギー分野



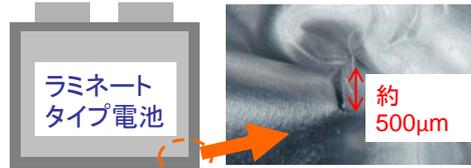
2. リチウムイオン電池市場(2)

(新規リリース第二、三弾)

顧客要求をヒントに、更に製品への負荷を軽減させた
部分放電式新型テスター、及び電池パッケージの
微小キズを検知する**探傷試験器**がリリース間近



(例)材料の放電状況カウント波形



肉眼で検出困難な微小キズを判定

→試作機完成
顧客デモを開始したところ、良好の反応
(追加試験要求が続いている)

①次世代クリーンエネルギー分野



3. 太陽光パネル市場

リチウムイオン用試験機をベースにした
パネル特性評価装置を開発中
(絶縁性劣化の状態評価等)



これらの技術を応用し、高密度、高精細プリント基板の
絶縁評価機も検討中(MIGの進化系計測器)

②グローバル協業の推進



4. グローバル協業を軸に事業範囲を拡大(1)

**GEエナジー・ジャパン株式会社との業務提携
を実施** (2009年11月)
(国内における振動センサー及び状態監視システム分野)

・Bently Nevada製品の提案、
販売業務及び導入に伴う設置サービス、
導入後点検サポート業務



● 3500シリーズ

・両社の製品やサービスを組み合わせた新たな
ソリューションの提案、等

②グローバル協業の推進



4. グローバル協業を軸に事業範囲を拡大(2)

★ブリュエル・ケアー社との業務提携を実施
(2010年 2月)

B&K社の音響、振動計測器、及びLDS社の製品の
相互販売とサービスが、グローバルに展開可能

(技術交流を含め、更なる強固な提携構築に向け取組み中)

③鉄道車両用試験機ビジネス



海外高速鉄道計画等に伴うビジネス拡大

・2009年3月に完成した、鉄道車両用テストラボが
現在も順調な稼働状況



- ✓ 海外(中国、米国)の高速鉄道計画に合わせ、アプローチを強化
- ✓ エコシェーカー(省エネ機)での対応も同時に進める

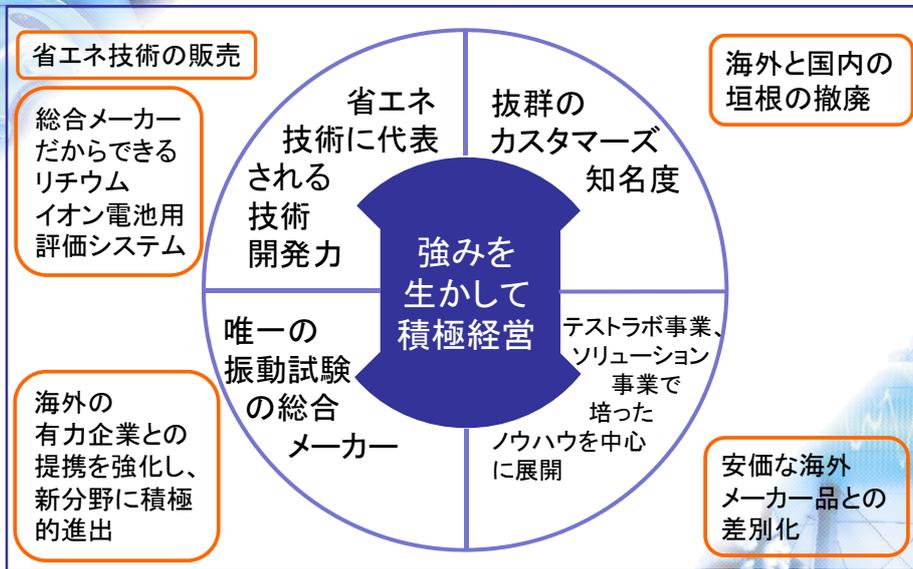
海外展開の強化



海外駐在による販売力の向上

- (1) MES製品の中国展開を強化すべく、駐在員を派遣する
→ 振動計測器の拡販が主目的
DSS試験機(鉄道含む)のプロモーション活動もタイムリーに実施
- (2) 東南アジア市場を睨み、マレーシアにも駐在員を派遣
→ 販売代理店とのタイアップ
将来に向け、ダイレクトに実態を把握し、課題を整理をする
→ 飛躍への第一歩

これからのIMV



27

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

ありがとうございました



代表取締役会長 小嶋 成夫

代表取締役社長 岡本 二郎

執行役員（経営企画部長兼新規事業部長） 桂井 徹

お問合せ先

IR窓口：経営企画部・IR担当 大和・河野

TEL：06-6478-2565 FAX：06-6478-2567

E-MAIL：imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

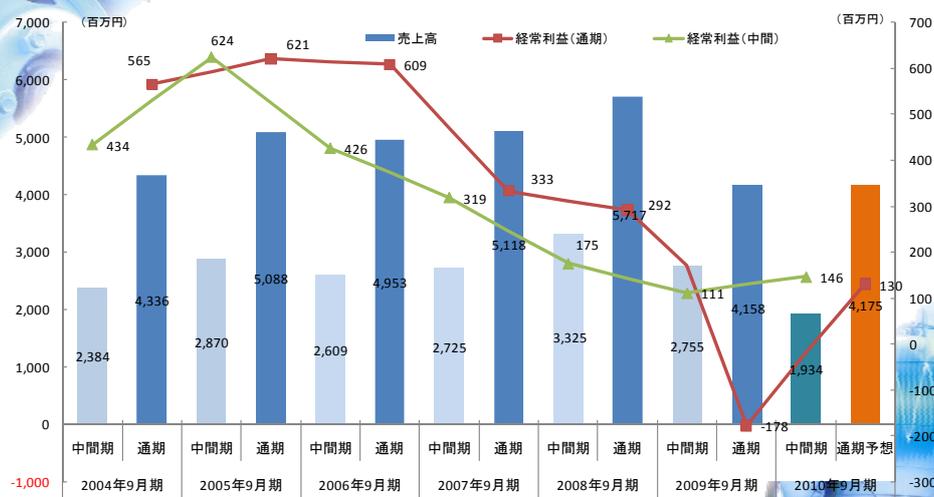


(ご参考資料)



Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

業績推移(連結)



※ △は経常損失を表します。

連結貸借対照表の概要



(単位:百万円)

	10/9中間期末	09/9期末	増減額		10/9中間期末	09/9期末	増減額
流動資産	3,273	3,303	△29	流動負債	3,314	3,361	△46
現金預金	991	878	+112	仕入債務	548	497	+51
売上債権	1,482	1,508	△25	短期有利子負債	2,425	2,589	△163
棚卸資産	651	708	△57	其他流動負債	340	274	+65
其他流動資産	148	207	△59	固定負債	1,350	1,576	△225
固定資産	3,395	3,546	△151	長期有利子負債	1,026	1,257	△231
有形固定資産	3,121	3,232	△111	其他固定負債	324	318	+5
無形固定資産	65	59	+5	負債合計	4,665	4,938	△272
投資其他資産	207	254	△46	純資産合計	2,003	1,912	+90
資産合計	6,668	6,850	△181	負債・純資産合計	6,668	6850	△181

資産の部 : 現金預金の増加112百万円、売上債権の減少25百万円及び棚卸資産の減少57百万円により流動資産が29百万円減少しました。減価償却により有形固定資産は111百万円の減少となりました。

負債の部 : 短期有利子負債が163百万円減少した事等により流動負債は46百万円減少しました。社債の償還等により固定負債が225百万円減少しました。

純資産の部 : 四半期純利益の計上による利益剰余金の増加により純資産は90百万円増加しました。

31

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



(単位:百万円)

	10/9期中間期	09/9期中間期	増減額
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	498	460	+38
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	31	△202	+233
①+② フリーキャッシュフロー	529	257	+271
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△423	△103	△319
④ 現金及び現金等価物に係る換算差額	0	△0	+1
⑤ 現金及び現金同等物の増減額	106	153	△46
⑥ 現金及び現金同等物期首残高	645	358	+287
⑦ 現金及び現金同等物四半期末残高	751	511	+240

営業CF: 税金等調整前四半期純利益105百万円、減価償却費124百万円、売上債権の減少額38百万円及び法人税等の還付額71百万円等による増加要因が、利息の支払額22百万円等の減少要因を上回ったことにより38百万円増加いたしました。

投資CF: 定期預金の払戻による収入50百万円及び保険積立金の解約による収入12百万円等による増加要因が、有形固定資産の取得による支出18百万円等による減少要因を上回ったことにより233百万円増加いたしました。

財務CF: 短期借入金の純減額165百万円及び長期借入金の返済による支出290百万円等による減少要因が、長期借入による収入100百万円等による増加要因を上回ったことにより319百万円減少いたしました。

32

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

用語説明



DSS……振動シミュレーションシステム(振動試験装置、複合環境試験装置)

MES……メジャリングシステム(振動計測装置、振動監視装置)

MIG……環境信頼性評価システム(マイグレーションテスター、導通信頼性テスター)

TSS……テスト&ソリューションサービス(テストラボ事業、ソリューション事業)

EGS……エンジニアリングサービス(振動試験装置・計測装置の修理・点検・保守)

会社概要(2009年9月期:連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)

証券コード : 7760 (ジャスダック/精密機器)

設 立 : 1957年4月17日

事業概要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売及びテスト&ソリューションサービスの提供

代 表 者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫
代表取締役社長 岡本 二郎

売 上 高 : 4,158百万円

経 常 損 失 : 178百万円

資 本 金 : 464百万円

従 業 員 数 : 213人 (48名の期中平均臨時従業員含む)

本社所在地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10

(本社/技術本部/大阪工場/東京工場/東京営業所/海外営業部
/大阪営業所/名古屋営業所/東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

会社沿革



- 1957年 4月 株式会社国際機械振動研究所を設立
- 1974年 10月 会社更生法を大阪地裁へ申請
小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
- 1985年 7月 残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
- 1994年 9月 日東精機㈱を100%子会社化
- 1998年 4月 国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
- 2005年 5月 本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
- 2005年 6月 大阪テストラボ開設
- 2005年 7月 ジャスダックに上場
- 2007年 2月 大阪にショールーム開設
- 2007年 4月 会社設立50周年
- 2007年 9月 名古屋テストラボ開設
- 2009年 3月 大阪テストラボに鉄道車両機器向け新試験棟開設
- 2009年 12月 ㈱データ・テクノを100%子会社化

経営ポリシー



SECURE THE FUTURE

～IMVが見守る未来～

FIRST Choice for our Partners

- Future** 安全を見つめて未来の社会に貢献します
- Integrity** 誠実で開かれたパートナーシップを大切にします
- Reliability** 製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます
- Strength** 振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します
- Technology** 顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します

国内トップシェアを実現する3つの事業



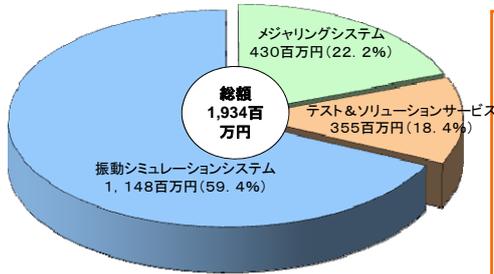
振動を**再現**する
振動シミュレーションシステム



振動を**計測**する
メジャリングシステム



振動問題を**解決**する
テスト&ソリューションサービス



(2010年9月期 中間期 連結売上高)

振動シミュレーションシステムの用途 ～あらゆるシーンで使用されています～

